

教師力向上支援事業派遣研修報告書

- | | |
|-----------|--|
| 1 所属・職・氏名 | 富山県立氷見高等学校・教諭・糸岡真理 |
| 2 研修期間 | 令和5年8月29日(火)～令和5年9月6日(水) 9日間 |
| 3 調査研究課題 | ヨーロッパ諸国における教育、文化、芸術等の調査研究及び教員としての資質向上 |
| 4 研修機関等 | オーストリア：市内視察
ドイツ：ミュンヘン市教育・スポーツ局、在ミュンヘン日本国総領事館
オストヴュルテンベルク商工会議所アーレントレーニングセンター
Zeiss 本社
デンマーク：ホイデバンゲンス学校、ガメルヘレロップ高校
在デンマーク日本国大使館 |

5 研修の概要

(1) ミュンヘン市教育・スポーツ局

ドイツの教育制度や職業教育についてプレゼンテーションを受けた。ドイツは複線型の教育制度を採用しており、初等教育（6歳～10歳までの4年間）終了後、主にギムナジウム（大学進学を目指す）とリアルシューレ（実科学校。卒業後、職業教育学校への進学や中級の職への就職を目指す）、ハウプトシューレ（基幹学校。卒業後、就職して職業訓練に進む）の中から自分の進路先を選択することになる。そして、ドイツの職業教育システムとして、職業訓練（実習）と就学（理論）を並行して行う「デュアルシステム」がある。ミュンヘンには87の職業学校があり、約5万人の生徒に対し、130種類以上の職業訓練を行っている。「デュアルシステム」には、①週2日間職業学校で学び、残りは企業で訓練する ②9週間ごとに職業学校での学びと企業での訓練を繰り返す という2つの方法があり、教育契約を結ぶことで企業から給料を受け取ることができる。約70%の生徒が訓練を受けた企業にそのまま就職している。このような「デュアルシステム」をドイツ全体が誇りに思っている一方、課題も出てきている。まずは、教員不足である。そこで、教員になることを呼びかけるポスターなどを作成したり、SNSを活用したりして広報活動を行っている。また、専門家不足も進んでおり、特に、介護や医療、精肉、製パンなどに関する分野で深刻化している。職を探している若者も多くいるが、求人と求職のニーズの不一致が起こっている。これらの課題へのミュンヘン独自の対策として、移住民のための職業学校がある。外国からミュンヘンに来た16～21歳までの青年たちに就学を義務づけ、ドイツ語や数学、社会、職業などについて教育を受ける機会を設けている。2年間の学習期間の後、ドイツ語による卒業試験を受ける。卒業生の約50%がその後、「デュアルシステム」による職業教育をスタートしており、労働力化・戦力化につなげることができるようはたらきかけている。

(2) オストヴュルテンベルク商工会議所アーレントレーニングセンター

労働者を訓練する施設であり、デュアルトレーニング（見習い向け）から最高レベルの技術訓練まで多岐にわたる訓練が実施されている。高い技術力を兼ね備えたスペシャリストを育成するための「マイスター制度」についてプレゼンテーションを受けた。企業においてマイスターは、よりより製品を作りあげる製造現場の責任者であるとともに、若者への教育の責任も負っている。そのため、トレーニングセンターではその職種に関する知識・技術だけでなく、「企業・経済」「企業内の連携」「情報収集」「コミュニケーション」「計画」など幅広い内容について学んでいる。マイスターの称号を得るには、まずはトレーニングセンターでの3年半にわたる教育+1年間の現場実習が必要であり、最短でも4年半かかる。その後も勉強を重ねる必要があり、長い道のりのようにも感じるが、この制度によってドイツの高度なものづくりが支えられている。また、マイスターのうち女性は約10%と少なく、女性の割合を高める取り組みも行われている。

(3) Zeiss 本社

光学およびオプトエレクトロニクス分野で世界的に事業を展開する先端企業。デュアルシステムにおいて、実際に訓練生を受け入れ、教育を行っている。訓練生として「成績のよい生徒（特に数学、物理、コンピュータ）」「手先の器用な生徒」「やる気をもっている生徒」「あらゆる

ことに興味を示し、自分のアイディアをもっている生徒」を求めている。訓練生は、世界的にも有名な Zeiss でトレーニングを受けさせてもらえることを誇りに思っており、企業側も有能な若者にトレーニングできる喜びや後継者を確保することができるメリットを感じている。良好な関係を築き、目的に応じたトレーニングをすることで質の高い専門家を送り出すことができている。

(4) ホイデバンゲンス学校

コペンハーゲン市内にある公立中学校。7年生(13歳)～9年生(16歳)の生徒が約700名、教員が102名在籍している。この夏には254名の生徒が7年生としてスタートし、10クラスで学んでいる(1クラス最大28名)。低所得者から富裕層まで家庭環境や学力が全く異なる生徒たちが集まってくるため、教員を増員してレベル別の授業を実施するなど、生徒が落ち着いて学び、どの生徒も力を伸ばすことができるように努めている。さらに、デンマークの特徴的な取り組みとして、特に数学に優れた生徒が週末に他の学校の生徒と学び合う機会が設けられている。また、この学校には様々な国籍の生徒が在籍しており、世界中から来た生徒たちがデンマーク語を学ぶためのクラスも設けられている。教育方針として、「人生の勉強」「人を育てる」ということを大切にしており、社会に出て行くための準備として、様々な経験をさせている。その中で、生徒が学校生活を楽しいと感じることやそれぞれが持っている可能性を活かせるような環境を整えることを大切にしている。教員と保護者の対話も重視しており、日頃からこまめに情報を発信するとともに、何か問題が生じた時には保護者にも協力を強く仰いでいる。

(5) ガメルヘレロップ高校

生徒が約1,000名、教員が約120名在籍している大規模校。デンマークの中では、富裕層が多い地域であり、保護者も高い教育レベルをもっていることが多い。教育方針として、「学術的に優秀な生徒を育てる」「仲間(人との関係)や多様性を大切にする」ことを掲げている。ヨーロッパでは主に英語を使っているが、ドイツ語とフランス語の教育にも力を入れている。入学後、最初の3ヶ月は基礎的なことをみんなで一緒に学び、その後はそれぞれが学びたい分野に分かれていく。全ての科目においてA、B、Cのレベルがあり、言語学、社会科学、自然科学、音楽について専門的に学ぶことができるが、この学校の生徒は国語(デンマーク語)と歴史に関してはAレベルを学ぶことが義務づけられている。生徒たちの多くがこのまま大学に進学する(法学部、経済学部、工学部、医学部など)ため、その準備として「学習メソッド」を教えている。その一つとして、卒業前には各自でテーマを決めて20ページ程度の卒業論文を提出し、その内容について議論し合うということも実践されている。

(6) 研修を終えて

今回の海外教育事情視察を通して、ドイツの「複線型教育」や「デュアルシステム」について学んだことは、高校で主に専門学科の生徒を担当している私にとってキャリア教育のあり方について改めて考える機会となった。ドイツでは、商工会議所や企業、学校など地域社会が一体となって職業人の育成に努めている。先日、本校ではインターンシップ(就業体験)を実施した。実施後、「その仕事に対するイメージが変化した」「進路選択に役立ちそう」などと感じている生徒が多く、このようなインターンシップも受け入れ先と連携し、実施期間を変更したり、継続性をもたせたりすることで、日本の教育の良さも活かしながら職業教育をより充実させることができるのではないかと感じた。さらに、デンマークでの学校視察では、生徒たちの探究心の強さやコミュニケーション力の高さに驚かされた。そして、幼い頃から「自分の考えをもち、それを伝える」ということが当たり前の環境の中で育ってきているということを教えていただいた。時間に追われ、こちらからの一方的な知識の詰め込みや、教員主導の探究学習になってしまいがちな日頃の授業に改善の必要性を強く感じさせられた。また、海外で過ごす中で、日本とは異なる風土・生活に合わせた家のつくりや街並み、スーパーに並ぶ食品の種類や物価の高さ、道に設置されたたくさんのゴミ箱、オールジェンダーを表すピクトグラムなどに気付かされた。これらの経験を「家庭科」の教科指導において貴重な授業題材とし、生徒に還元していきたいと考える。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった富山経済同友会の皆様、富山県教育委員会の皆様に心より感謝申し上げます。